

渡辺章悟教授 略歴・業績目録

一九五三年一月一四日 群馬県多野郡吉井町（現在、高崎市）生まれ

学歴

- 一九七一年三月 群馬県立高崎高等学校卒業
- 一九七二年四月 法政大学文学部哲学科入学
- 一九七七年三月 法政大学文学部哲学科卒業
- 一九七七年三月 東洋大学大学院文学研究科修士課程仏教学専攻入学
- 一九八〇年三月 東洋大学大学院文学研究科修士課程仏教学専攻修了
- 一九八〇年四月 東洋大学大学院文学研究科博士課程仏教学専攻入学
- 一九八三年三月 東洋大学大学院文学研究科博士課程仏教学専攻満期退学
- 二〇〇五年三月 博士（文学）、東洋大学

職歴（含、研究員歴）

- 一九八五年九月―現在、（財）東方研究会（現 公財・中村元東方研究所）、研究員（現在は兼任研究員）
- 一九九二年九月―一九九二年十一月、ダリー大学・St. Stephen's College 客員研究員

- 一九九五年四月―二〇〇〇年三月、東洋大学、文学部印度哲学科、助教授
二〇〇〇年四月―現在、東洋大学文学部インド哲学科（現・東洋思想文化学科）、教授
二〇〇七年四月―二〇〇九年三月、東洋大学大学院、文学研究科仏教学専攻、専攻長
二〇一二年四月―二〇一六年三月、東洋大学大学院、文学研究科インド哲学仏教学専攻、専攻長
二〇二〇年四月―二〇二二年三月、東洋大学附置東洋学研究所 所長

教 歴（非常勤講師）

- 一九八八年四月―一九九五年三月、東洋大学文学部印度哲学科、非常勤講師
二〇〇七年四月―二〇〇七年九月、東京大学文学部、非常勤講師
二〇一二年四月―二〇一六年三月、国際仏教学大学院大学、非常勤講師
二〇一二年四月―二〇二三年三月、大正大学大学院、仏教学専攻、非常勤講師
二〇一六年四月―二〇一七年三月、大正大学総合仏教研究所、特別講師
二〇一六年四月―二〇一八年三月、早稲田大学大学院、非常勤講師

褒章

- 二〇一〇年九月 日本印度学仏教学会 鈴木学術財団特別賞（受賞対象『金剛般若経の研究』）
二〇二〇年九月 中村元東方学術賞、（公財）中村元東方研究所・インド大使館

学会活動・社会活動

- 一九九四年四月―現在、(公財)仏教伝道協会、英訳大藏經編集委員会委員
- 二〇〇二年四月―二〇一五年三月、日本印度学仏教学会、常務委員
- 二〇〇三年四月―現在、日本印度学仏教学会、理事・評議員
- 二〇〇七年一〇月―現在、日本印度学仏教学会、企画編集委員会委員
- 二〇〇九年一〇月―現在、日本チベット学会、委員
- 二〇一〇年四月―二〇二〇年三月、日本宗教学会、評議員
- 二〇一一年六月―現在、(般財)東方学会、地区委員
- 二〇一一年八月―現在、仏教思想学会、理事
- 二〇一二年一〇月―現在、(般財)仏教学術振興会、評議員
- 二〇一四年一〇月―現在、(NPO)中村元記念館東洋思想文化研究所、東洋思想文化賞選考委員
- 二〇一六年四月―二〇一八年三月、(般財)日本印度学仏教学会、学会賞選考委員
- 二〇一六年四月―現在、(般財)大法輪閣石原育英会、理事

主要業績目録

I 著書(分担執筆は除く)

1. 『大般若と理趣分のすべて』溪水社、一九九五年、全六〇三頁・写真図版八頁
2. 『中央アジア出土の仏教梵語文献の研究(一九九六―一九九八年度文部省科学研究費助成・基盤研究(〇一)、

一九九九年三月、全五六頁

3. 『大智度論の物語(三)』レグルス文庫二三三、第三文明社、二〇〇一年、全一八三頁
 4. 『金剛般若経の成立と展開についての研究―新発見のサンسكريット資料を中心として』平成一六〜一七年度科学研究費補助金(基盤研究(C))(2) 報告書、東洋大学、二〇〇六年三月、全一三四頁
 5. 『金剛般若経の梵語資料集成』山喜房佛書林、二〇〇九年、全一三〇頁
 6. 『金剛般若経の研究』山喜房佛書林、二〇〇九年三月(博士学位論文) 二四十五六七頁
 7. 『般若心経―テクスト・思想・文化』大法輪閣、二〇〇九年二月、三四〇+三六頁
 8. 『絵解き般若心経―般若心経の文化的研究』ノンブル社、二〇一二年五月、二四九頁、写真図版八頁
 9. 『井上円了の世界旅行―旅する創立者井上円了―』東洋大学、二〇一四年三月、全四四頁
 10. 『般若経の思想』春秋社、二〇一九年二月、全二三九頁
 11. 『観音の呪 大悲心陀羅尼』仏教企画、二〇二二年四月、全四六頁
 12. 『大智度論の物語』(三)(補注改訂版)、レグルス文庫二三三、第三文明社、二〇二三年二月、全二二〇頁
- II 編著書
1. 『梵藏漢 法華経原典総索引』全11巻、(共編、代表者江島恵教)、霊友会、一九八五―一九九三年、一三+一一九三頁
 2. 『大乘経典解説事典』(小峰彌彦・勝崎裕彦・下田正弘との共編著)、北辰堂、一九九七年、四一六+三三六頁
 3. *Index to the Saddharmapitakatsūtra---Tibetan, Sanskrit* (共編、代表者江島恵教)、霊友会、一九九八年

一二月

4. 『漢梵法華經索引』(Chinese-Sanskrit Index to the Saddharmapundarikastira)、法華經原典研究会編、the Reiyukai(Tokyo)、二〇〇三年二月、一六+一〇八六頁
5. 『ブツダを知る事典』(菅沼晃との共編著)、佼成出版社、二〇一一年九月、全三五〇頁
6. 『東アジアにおける仏教の受容と変容 ―智の解釈をめぐって』渡辺章悟編、東洋大学東洋学研究所、二〇一四年三月
7. 『般若経大全』(勝崎裕彦・小峰彌彦との共編著)、春秋社、二〇一五年一月、四+一六+五一五頁
8. 『般若心経註釈集成(インド・チベット編)』(高橋尚夫との共編著)、起心書房、二〇一六年九月、四+三八二+一四頁
9. 『般若経の教理・儀礼・実践の総合的研究』渡辺章悟編(東洋大学東洋学研究所プロジェクト平成二七〜二九年度研究報告書)、東洋大学東洋学研究所、二〇一八年二月、全一一八頁
10. 『『八千頌般若経』梵蔵、蔵蔵―梵対照表』(平成二七〜二九年度科学研究費助成事業 基盤研究(C))『八千頌般若経のデータベース及び言語検索ツールの構築』報告書)、研究代表者渡辺章悟、東洋大学東洋学研究所、二〇一八年二月、全一一八頁
11. 『般若心経註釈集成(中国・日本編)』(高橋尚夫との共編著)、起心書房、二〇一八年七月、四+四五五+一一頁
12. 渡辺章悟監訳・グレゴリー・ショーペン著『インド大乘仏教の虚像と断片』国書刊行会、二〇二二年十二月、十八四三九頁

Ⅲ 学術論文

1. 「対告衆としての Satpuruṣa」『東洋大学大学院紀要』通号一八、1982-2-28, pp. 79-92 (L)
2. 「月称とツォンカパの『五部論』観」『印仏研究(印度学仏教学研究)』通号六一、1982-12-25, pp.134-135
3. 「大乘空観の一考察」『東洋大学大学院紀要』通号一九、1983-2-28, pp. 97-112 (L)
4. 「般若経における空の法数と空義の理由句」『印仏研究』通号六三、1983-12-25, pp. 202-205
5. 「般若経」における四句否定の根拠としての abhāvasvabhāva」『宗教学研究』通号二六三、1985-3, pp. 160-162
6. 「般若経」における無自性と abhāvasvabhāva」『印仏研究』通号六六、1985-3-25, pp. 138-139
7. 「八不と縁起」『東洋大学大学院紀要』通号二三、1987-3-10, pp. 37-50
8. 「般若経」における縁起」『印仏研究』通号七〇、1987-3-25, pp. 33-36
9. 「般若経」における八不と縁起」『宗教学研究』通号二七一、1987-3-31, pp.176-179 (R)
10. 「菩薩関係文献目録」『大乘菩薩の世界：金岡秀友博士還暦記念論文集』1987-7-20, pp. 1-132 (L) (菅沼晃等共著)
11. 「顛倒論試考」『仏教学』通号二三、仏教思想学会、1987-12-25, pp. 51-83
12. 「Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā - VI anupūrvābhisamayādhikaraḥ -」『東洋大学大学院紀要』通号二五、一九八九-二二八、pp. 165-182 (L)
13. 「般若経」における abhāva の用法」『印仏研究』通号七四、1989-3-20, pp. 121-125 (L)
14. 「弘法大師逆修日記事」からみた十三仏信仰」『宗教学研究』通号二八三、1990-3-31, pp. 157-159
15. 「十三仏信仰の儀軌としての『弘法大師逆修日記事』」『曹洞宗研究員研究紀要』通号一一、1990-12-1, pp. 38-46 (R)
16. 「経録からみた『摩訶般若波羅蜜神呪経』と『摩訶般若波羅蜜大明呪経』」『印仏研究』通号七七、1990-12-20,

pp. 54-58

17. 『Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā VII-1』『東洋大学大学院紀要』通号二七、1991-2-28, pp. 136-117 (L)
18. 「般若心経成立論序説」『佛教学』三一、佛教思想學會、一九九一年七月、pp.41-86
19. 「未比定の般若経写本研究Ⅰ」『印仏研究』四〇(一)、一九九一年、pp.413-417
20. 「般若経」における非存在 *abhava* の意義』『真野龍海博士頌寿記念論文集 般若波羅蜜多思想論集』山喜房佛書林、一九九二年三月、pp.47-78.
21. 「インドの宗教に於ける十六の概念」『井上田了センター年報』一、一九九二年、pp. 190-159
22. 『Prasāstrasena 造』『般若心経広注』和訳研究』『曹洞宗研究員研究紀要』二二三、一九九二年、pp. 21-53
23. 「中央アジア出土の般若経梵文断簡Ⅰ—PV第六現観をめぐって—」『東洋学研究』三〇、東洋大学附置東洋学研究所、一九九三年、pp.41-67
24. 「古代インドの倫理思想・仏教の成立と展開」『東洋倫理思想史』里道徳雄・新保哲編、北樹社、一九九三年六月、pp.27-64.
25. 「未比定の般若経写本研究Ⅱ」『印仏研究』四一(一一)、一九九三年、pp.991-996
26. 『Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā VII-2』『東洋大学大学院紀要』二九、一九九三年二月、pp.1-16
27. 「中央アジア出土の般若経梵文断簡」『東洋学研究』三〇、東洋大学東洋学研究所、一九九三年三月、pp.41-67
28. A Fragment of the Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā-sūtra from Eastern Turkestan. *Journal of the American Oriental Society*, 114 (3) , 1994, 10, pp.383-396
29. 「ブラジュニャー (prajñā) 再考—ウパニシヤッドから仏教へ—」『東洋学論叢』才二一号 (東洋大学文学部

- 紀要印度哲学科篇) 一九九六年、pp.76-90
- 30 A Fragment of the Sanskrit Text of the Śīlapāramitā. *Wiener Zeitschrift für die Kunde Südasiens und Archiv für Indische Philosophie*, Band 41, 1997. 3, pp.93-98
- 31 「般若波羅蜜多 (Prajñāpāramitā) の解釈」『東洋学論叢』二二(一九九七年三月)、pp.59-80
- 32 「Prajñāpāramitāの四つの語源解釈」『印仏研究』四六(二)、一九九八年三月、pp.130-137
- 33 「金剛般若の法滅句」『印仏研究』四八(一)、一九九九年、pp.104-112
- 34 「『金剛般若』の重層性、キルギット写本と現存Conze校訂本との比較」阿部慈園編『金剛般若経の思想的研究』春秋社、一九九九年、pp.59-91
- 35 「インド仏教の法滅思想 1 — 金剛般若の法滅句をめぐる —」『東洋学研究』二七(二〇〇〇年)、pp.79-102
- 36 A Reconsideration of Prajñā: From The Upaniṣads to Buddhism. International Association of Sanskrit Studies' *Indologica Taurinensia*, Official Organ of the International Association of Sanskrit Studies 1997-1998, Torino (Italy) 23/24, 2000, pp.257-270
- 37 「インド仏教の法滅思想 2 — 初期仏教資料をめぐる —」『東洋学論叢』二六(東洋大学文学部紀要 印度哲学科篇) 第五四集、二〇〇一年、pp.115-130
- 38 「スコイエン・コレクシヨンの『金剛般若経』」『印仏研究』五〇(一)、二〇〇一年、pp.94-102
- 39 「『八千頌般若』の一切智 — sarvajña, sarvajñatva, sarvajñatā」『東洋学論叢』二八(東洋大学文学部紀要 印度哲学科篇) 第五六集、二〇〇二年三月、pp.50-79
- 40 「『金剛般若経』に見られる色身・法身の偈頌」『東洋思想における心身観』特別号、東洋大学東洋学研究所、

- 二〇〇三年三月、 pp.1-26
- 41 「チベット語訳『金剛般若経』シェルカル (Shel dkar) 写本の特徴」『印仏研究』五二(一)、二〇〇三年十二月、 pp.59-66
- 42 「チベット語訳『能断金剛般若経』校訂テキスト(一)」『東洋学研究』四一、二〇〇四年三月、 pp.105-120
- 43 「大乘仏教」『インド哲学仏教学への誘い』菅沼晃博士古稀記念論文集刊行会、大東出版社、二〇〇五年三月、 pp.129-142
- 44 「仏典はどのように漢訳されたのか―笈多訳『金剛能断般若波羅蜜経』を巡って」『東洋学論叢』三〇、二〇〇五年三月、 pp.24-44
- 45 「最終解脱へ向かう三昧―『大般若波羅蜜多経』における金剛喩定―」『印度哲学仏教学』第二〇号、北海道印度哲学仏教学会、二〇〇五年一月、 pp.38-57
- 46 「Vajropamasamādhīの考察」『印仏研究』五四(一)、二〇〇五年十一月、 pp.349-357
- 47 Vajracchedikā Prajñāpāramitā, Paul Harrison and Shogo Watanabe eds., *Manuscripts in The Schøyen Collection, Buddhist Manuscripts 3*, Hermes Publishing, Oslo, 2006, pp.89-132
- 48 「Vajra考」『東洋学論叢』三二(インド哲学科編『東洋大学文学部紀要』)、二〇〇六年三月、 pp.21-31.
- 49 「『大般若波羅蜜多経』における金剛についての研究」『法華経と大乘経典の研究』、望月海淑編、山喜房佛書林、二〇〇六年六月、 pp.215-239.
- 50 「Vajra考(一)―石とダイヤモンド―」『東洋学論叢』三二(インド哲学科編『東洋大学文学部紀要』)第六〇集、二〇〇七年三月、 pp.92-113

- 51 「Vajra考補遺 — Nārāyaṇaの周辺から—」『密教理趣の宇宙』（福田亮成先生古稀記念論文集 『智山学報』）
第五六輯、智山勸学会、二〇〇七年三月、pp.113-129
- 52 The Role of Destruction of the Dharma and Predictions in Mahāyāna Sūtras: With a Focus on the
Prajñāpāramitā Sūtras, The TOHO Gakkai (The Institute of Eastern Culture), *Acta Asiatica*, No.96, 2009.2,
pp.77-97
- 53 「明治の仏教と仏教青年会運動」『仏教文化』四九、東京大学仏教青年会、二〇一〇年三月、pp.1-34
- 54 「大乘教団のなご」『仏教の形成と展開』新アジア仏教史02 インドⅡ）佼成出版社、二〇一〇年一〇月、
pp.171-202
- 55 「大乘仏典における法滅と授記の役割 — 般若経を中心として」『大乘仏教の誕生』（シリーズ大乘 第二巻）、
春秋社、二〇一一年一二月、pp.73-108
- 56 「六国史にみる般若経」『東洋学研究』第四九号、二〇一二年二月、pp.111-133
- 57 「般若経の成立過程—智の展開を中心として」『経典とは何か（二）—経典の成立と展開受容』日本仏教学会編
平楽寺書店、二〇一二年七月、pp.29-62
- 58 「『金剛般若経』の即非の論理」『財団法人 松ヶ岡文庫研究年報』二七、二〇一三年三月、pp.43-53
- 59 「般若経の三乗思想」『東洋学論叢』三八、『東洋大学文学部紀要』（インド哲学科篇 第六六集）、二〇一三年三月、
pp.137-146
- 60 「般若経の形成と展開」『智慧・世界』とば — 大乘仏典Ⅰ』（シリーズ大乘 第四巻）春秋社、二〇一三年五月、
pp.101-153

61. 「般若経における菩薩乗の意味」『印仏研究』六二(11)・二〇一四年三月、pp.173-181
62. Possibility of View on Nature of Buddhism, *Proceedings of International Congress of Asian and North African Studies* (ICANAS 38), ULUSLARARASI ASYA VE KUZEY AFRIKA ÇALIŞMALARI KONGRESI (10-15 EYLÜL 2007:ANKARA), <http://www.ayk.gov.tr/baglantilar/icanas-38/>, *International Congress of Asian and North African Studies*, 2015.1, pp.709-716
63. 「六国史に見る『般若心経』の受容と展開」『東洋思想文化』二二・二〇一五年三月、pp.21-36
64. 「大乘経典における慈悲と憐愍」『宗教の壁を乗り越える―多文化共生社会への思想的基盤』東洋大学国際哲学研究センター編、ノンブル社、二〇一六年三月、pp.199-209.
65. 「般若心経」のタイトルをめぐる諸問題 ―サンスクリット写本の分析から― 『三友健谷博士古稀記念論文集 智慧のともしび ―アビダルマ仏教の展開』、山喜房佛書林、二〇一六年三月、pp.633-639
66. Some Questions Concerning the Title of the Prajñāpāramitā-hṛdaya-sūtra. 『智山学報』六五(小峰・小山教授退任記念号)・二〇一六年三月、pp.21-33
67. 「南部絵経 ―文字の読めないものたちの「法華経」信仰」『日本化する法華経』(アジア遊学202) 浅田徹編、勉誠社、二〇一六年一〇月、pp.201-211.
68. 「空性表現から見た『般若心経』の成立」『東洋思想文化』四・二〇一七年三月、pp.25-66
69. 「説法師 (dharmabhāṅka) 考」『印仏研究』六六(1)・二〇一七年二月、pp.404-398
70. 「菩薩と三乗」『佛光學報』四(1)・佛光大学：台湾、二〇一八年一月、pp.1-25
71. The Origins of the Idea of Three Vehicles in the Prajñāpāramitā Sūtras, *Reading Slowly A Festschrift for*

Jens E. Braarvig, edited by Lutz Edzard, Jens W. Borgland and Ute Hüsken, Harrassowitz, 2018.1, pp.393-408

- 72 「般若経の意図するもの」『東洋思想文化』五、二〇一八年三月、pp.1-24
- 73 「大蔵経の英訳とその課題」『宗典翻訳事業の意味を問う—禅からZENへ— (Soto Zen Buddhism International Symposium)』二〇一八年三月、pp.29-33
- 74 「仏教における慈悲と憐愍」『人道研究ジャーナル』七、日本赤十字国際人道研究センター、二〇一八年三月、pp.30-42
- 75 「大乘仏典の伝承者 —dharmabhanaka (説法者) の位置づけ」『国際哲学研究』七、二〇一八年三月、pp.63-79
- 76 「大乘仏教の伝承者たち —saipuruṣaをめぐる—」『印仏研究』六七(一)、二〇一八年十二月、pp.1-11
- 77 「日本の山岳信仰の独自性 —立山信仰をめぐる—」『東洋学研究』五六、東洋大学附置東洋学研究所、二〇一九年三月
- 78 「Saipuruṣa考」『東洋思想文化』六、東洋大学文学部、二〇一九年三月、pp.1-26 (Left)
- 79 「大乘仏教の説法者 —ダルマバーナカ (Dharmabhanaka) —」、『禅学研究所紀要』四七、愛知学院大学禅学研究所、二〇一九年三月、pp.1-34
- 80 「般若経と『中論』の縁起説」『印仏研究』六八(一)、二〇一九年十二月、pp.139-147 (左)
- 81 「A Question Concerning the Title of the Prajñāpāramitā-hṛdaya-sūtra: Is the Prajñāpāramitā-hṛdaya-sūtra a Sūtra that Advocates Emptiness or a Dharaṇī (Mantra)?」, *Investigating Principles: International Aspects*

of Buddhist Culture, Prof. Charles Willemen Felicitation Volume, eds. by Laji Shrivak & Supriya Rai, The Buddha-dharma Centre of Hong Kong : Hong Kong, 2020, 1, pp.383-396

82 「般若経の縁起説とその展開 — 龍樹『中論偈』の八不偈をめぐる」『東洋思想文化』七、東洋大学文学部、二〇二〇年三月、pp.1-30 (Left)

83 「第二の転法輪」『駒澤大学佛教学部論集』五一号、二〇二〇年十二月二十六日、pp.1-13 (Left)

84 The Lineage of the *Prajñāpāramitāhṛdaya*: With a Focus on Its Introduction and Expressions of "Emptiness," *Acta Asiatica, Bulletin of The Eastern Culture 121—The Heart Sūtra Revisited: The Frontier of Prajñāpāramitāhṛdaya Studies*, The Toho Gakkai:Tokyo, 2021, 8, pp.23-52

85 「般若経の第二の転法輪」『東方』第三七号、(公財)中村元東方研究所、二〇二二年三月、pp.105-121

M—S C (その他)

1. 「観音信仰・釈迦信仰・弥勒信仰・金剛般若経・大智度論・般若心経・般若経・理趣経」の八項目『岩波哲学・思想事典』岩波書店、一九九八年三月

2. 「個人と教団の問題 例えはオウム真理教を読み解ける仏伝」(書評・羽矢辰夫著『ゴータマ・ブッダ』春秋社、一九九九年五月)『寺門興隆』十一月号、興山社、一九九九年十一月、pp.101-103

3. 書評・羽矢辰夫著『ゴータマ・ブッダ』(春秋社、一九九九年五月)『東方』一六号、二〇〇一年十二月三十一日、pp.192-195 (L)

4. 「仏教がわかるキーワード50」『仏教がわかる。』(AERAアエラムック)朝日新聞社、二〇〇〇年二月、

5. 「出家教団の理念とは? 律蔵によってわかる本来の僧の原点」(書評・佐々木閑著『出家とは何か』大蔵出版、一九九九年五月)『寺門興隆』三月号、興山社、二〇〇〇年三月、pp.79-102
6. 「仏教の死後観と十三仏信仰」高城功夫(研究代表)、『平成十四年度～平成十五年度科研究費補助金「基盤研究C2」研究成果報告書』、二〇〇四年三月、pp.132-3
7. 「三枝仏教学と私 — 中観から般若へ—」『三枝充憲著作集』(仏教の宗教観・人間観)第六卷、月報七、法蔵館、二〇〇五年七月、pp.34
8. 「書評・武田浩学『大智度論の研究』」(中外日報二〇〇五年一月六日火曜日、第六面)
9. 「仏教思想と共生(インド)」『東洋大学共生思想研究センター研究年報』第一号、二〇〇七年三月、pp.28-33
10. 「インド仏教から見た自然観の可能性」『エコ・フィロソフィ』研究』No.1, 東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニチアシブ、二〇〇七年二月、pp.37-42
11. 「現代日本社会における共生の諸相 — 共生思想の基礎的研究(一)—」『東洋大学共生思想研究センター研究年報』第一号、東洋大学共生思想研究センター、二〇〇七年三月、pp.83-91
12. 「共生の英訳はどれが適しているのか — 共生思想の基礎的研究(二)—」『東洋大学共生思想研究センター研究年報』第一号、東洋大学共生思想研究センター、二〇〇七年三月、pp.93-99
13. 「大般若転読会の歴史」『東洋思想における個と共同体の関係の探求』研究代表・竹村牧男、東洋大学東洋学研究所、二〇〇七年三月、pp.35-42
14. 「日本人の死後観 — 十三仏信仰を中心として」『日本における死への準備教育—死の実存的把握をめざして—』

- 研究代表：高城功夫（東洋学研究別冊、東洋大学東洋学研究所）、二〇〇七年三月、pp.133-168
- 15 「仏教の起源・禪の起源」『天祐山仁叟寺誌』仁叟寺誌編纂委員会、二〇〇七年四月八日、pp.1-33。
- 16 「寺田福寿と仏青運動 — 椎尾辨匡の共生運動への展開（一）」『共生思想研究年報二〇〇七』東洋大学共生思想センター編、二〇〇八年三月、pp.63-85
- 17 「お経の真意 — 般若心経・観音経の現代語訳」『神仏参拝の由来と作法がわかる本』新人物往来社、二〇一二年二月（『歴史読本 入門 神様・仏様の信仰事典』二〇〇九年二月号から転載）pp.172-177
- 18 「インド思想における共感と共苦」『共生思想研究年報二〇〇八』東洋大学共生思想センター編、二〇〇九年三月、pp.51-56
- 19 「失われる共生、求められる共生」『天台学報』通号五一、二〇一〇年二月、pp.21-37 (1)
- 20 「輪廻と環境 — インド仏教の自然観再考—」『宗教研究』三六三（パネルテーマ：宗教とヒロ・フィロソフィ — 東洋の宗教伝統を中心として—）、日本宗教学会、二〇一〇年三月、pp.186-187
- 21 「慈悲は共生社会の原理となりうるか」『浅草寺仏教文化講座 平成二二年度』第五五集、浅草寺、二〇一三年八月、pp.152-168
- 22 「誰でも読める般若心経 — 南部・盛岡藩で流行した絵文字文化」『在家佛教』二〇一二年一月号（社団法人在家仏教協会）、二〇一二年一月、pp.44-47
- 23 「般若心経研究の現在」(第六二回印仏学会パネル報告)『印仏研究』六〇(11)、二〇一二年三月、pp.281-282
- 24 「般若心経の成立と展開」『大法輪』八一(1)、大法輪閣、二〇一四年二月、pp. 82-86
- 25 「大学仏青の今昔 — 花まつりにちなみ」『週刊佛教タイムス』、二〇一四年四月三日、第五面

- 26 「田中公明著『般若学入門——チベットに伝わる現観莊嚴論の教え』『東方』第三〇号、二〇一五年三月、pp.212 - 213
- 27 『むとりの知恵を読む——仏教聖典副読本——』分担執筆、仏教伝道協会、二〇一五年一月
- 28 「東洋大学における東洋哲学の伝統と現在」『東方學會報』一〇九、二〇一五年十二月、pp.21-23.
- 29 「セッションNo.4の発表に対するコメント」『日本佛教学会年報』八〇、二〇一七年三月、pp. 195-170
- 30 「大悲心陀羅尼」(曹洞宗で唱えられるダラニ經典 第一回)『仏教企画通信』五七号、二〇一九年九月一日、pp.45
- 31 「大切なのは、真理の探究——仏教と井上円了——」(京極夏彦との対談)『井上円了「哲学する心」の軌跡といひから』講談社、二〇一九年一〇月、pp.26-29
- 32 「千手経とは」(曹洞宗で唱えられるダラニ經典 第二回)『仏教企画通信』五八号、二〇二〇年一月一日、pp.34
- 33 「大悲心陀羅尼が説かれる背景から」(曹洞宗で唱えられるダラニ經典 第三回)『仏教企画通信』六〇号、二〇二〇年六月一日、pp.34
- 34 「曹洞宗で唱えられるダラニ經典 第四回 大悲心陀羅尼の真言」『仏教企画通信』六一号、二〇二〇年九月一日、pp.34
- 35 「曹洞宗で唱えられるダラニ經典 第五回 大悲心陀羅尼」『仏教企画通信』六二号、二〇二一年一月一日、pp.35
- 36 「大乘仏教の興起」、「大乘仏教の展開」(『仏教事典』日本仏教学会編)、丸善出版、二〇二一年一月三十一日、

- pp.78-79, pp.80-81
- 37 「パンデミックを生きる ―仏教心理学と脳科学から―」『日本仏教心理学会誌』一二号、二〇二一年七月、pp.102-103
- 38 「大乘仏教の柱としての第二の転法輪」『仏教文化』二〇四号（東京国際仏教塾）、二〇二一年一〇月、pp.10-20
- 39 「ブツダは何を悟ったのか ―十二縁起の解釈をめぐる―」『日本仏教心理学会誌』第一三号、二〇二二年七月、pp.106-108
- 40 「大乘仏教の柱としての説法者ダルマバーナカ」『仏教文化』第二〇八号（東京国際仏教塾）、二〇二二年一〇月、pp.12-21

